

2017 年度 第 7 回総括班・国際活動支援班合同会議 議事録

日 時：2018 年 3 月 2 日（金）10 時 00 分-13 時 00 分

場 所：東京外国語大学 本郷サテライト 8 階会議室

出席者：酒井啓子、五十嵐誠一、石戸光、松永泰行（東京外国語大学）、鈴木絢女（同志社大学）、山尾大（九州大学）、久保慶一（早稲田大学）、曾我謙悟（学術調査官）、押尾高志（特任研究員）

報告事項

- ① 総括班・国際活動支援班の 2017 年度実績報告（酒井）と来年度の計画（国際支援班について、久保）

総括班の活動報告概要として、以下の報告があった。

- ・ 全体研究会を行い、領域全体の研究のすり合わせ、相互理解促進に尽力した。
- ・ 「グローバル関係学」学理確立を模索し、7 月の全体研究会にて報告したとともに、シンガポールなどでも英文で報告した。それを今後各専門分野でどう共有し活用して行くか、そのために今年度中にオンラインペーパーをアップする予定で準備している。
- ・ 若手研究者報告会を実施した（2 月開催、25 名応募あり 22 名採択）。参加者からの肯定的、積極的な反応を受けて、効果が大きかったと考える。来年度は京都大学での開催を検討中。
- ・ 計画研究横断プロジェクトとして移民難民プロジェクトを開始、実施。

国際活動支援班の活動報告として、以下の報告があった。

- ・ 1 月、シンガポールで移民難民に関する国際会議を実施。シンガポール国立大学との協力体制は今後引き続き維持し、研究交流を進めていきたい、と合意した。
- ・ 2018 年度は、グローバル関係学を国際的に発信していく目的で、グローバル関係学の学理確立に関わる国際会議を二件、開催する。
 - (i) 7 月、IPSA（世界政治学会）@ブリスベン（オーストラリア）、パネル報告（酒井、松尾）予定
 - (ii) 9 月、WSSF（世界社会科学フォーラム）@福岡、パネル報告（酒井）予定
- ・ 2018 年の国際会議はセルビアで実施予定（12 月）

- ② 各計画研究の 2017 年度実績報告と来年度の計画

A01（代表：松永）

- ・ 配布資料に基づき、計画研究全体、および分担者それぞれの研究成果、業績について報告があった。
- ・ 課題として、「グローバル関係学」の名前を冠した研究成果がまだないので、関係学の学理構築を待って今後は「関係学」を踏まえた研究を各計画研究で推進する必要がある。

特に「一国研究」の枠から広く「関係学」に展開させていくのにどのようなこ入れが必要か、考える必要がある。

A02 (代表：石戸)

- ・ 配布資料に基づき、計画研究全体、および分担者それぞれの研究成果、業績について報告があった。
- ・ 学理確立のための試みとして、ソシオン理論やオートポイエーシス理論についての勉強会を繰り返し実施した。
- ・ 今年度から同志社大学南シナ海研究センターと研究協力体制を取って密な相互交流を行っている。1月にはアイケンベリーを招聘して大規模な国際シンポを開催した。今後はオンラインペーパーとして公表ののち、一般読者向けの出版も考えている。

B01 (代表：酒井)

- ・ 配布資料に基づき、計画研究全体、および分担者それぞれの研究成果、業績について報告があった。
- ・ 計画研究のなかで、政治と文化（スポーツ、音楽など）、権威とアイデンティティ、規範の共振・共鳴といった三つの主軸のテーマを以てワークショップなどを開催、来年度も継続していくが、それぞれの三つの軸をどうまとめ上げるかが課題。
- ・ 京都大学東南アジア地域研究研究所CIRASセンターとの間で機関的協力関係の構築を進めている。

B02 (分担者：山尾)

- ・ 配布資料に基づき、計画研究全体、および分担者それぞれの研究成果、業績について報告があった。
- ・ イラク・ボスニア・シリアで共通の質問票を使った世論調査を実施、現在そのデータを整理、これらをいかに「グローバル関係学」的に分析するのか、検討している。データセットのオンラインペーパーでの公表も視野に入れる。
- ・ 今後他の分担者専門地域でも世論調査実施予定。
- ・ 来年度は世界中東学会、世界政治学会、世界社会科学フォーラムでパネルを組み、これら成果について国際発信する予定。

B03 (代表：五十嵐)

- ・ 配布資料に基づき、計画研究全体、および分担者それぞれの研究成果、業績について報告があった。
- ・ 2月メコン・コモنزをキーワードに文理融合のシンポジウム開催し、そのために研究会で議論を蓄積した。今後英語でのフルペーパー出版を目指す。

- ・ 同シンポで協力を得たメコン研究所と機関的協力体制を構築し、千葉大学との間で大学間交流協定締結に成功した。
- ・ 来年度は、アジア以外のコモンズについて、グローバルに広がりのあるような形で研究展開を予定。

討議事項 11:00-13:00

① 2018 年度全体研究会の予定をどうするか

未発表の分担者の報告を中心に、引き続き研究チーム全体での認識共有のために数回実施する。

② 2018 年度若手研究者報告会の京大 CIRAS との共催について

来年度の若手研究者報告会の会場を、京都大学稲森会館にお願いすることとした。

③ 今年度開催のセルビア会議について（久保国際支援活動班分担者より説明）

- ・ 日程は 12 月 21・22 日の二日開催、ホテルの会議室を使用予定。テーマは「紛争」。
- ・ 参加希望を寄せている報告候補者（現時点で 8 人）を中心に、8 パネル程度のシンポ構成を考えていくこととする。それぞれのパネルで出身国が偏らないように工夫したほうがよい。
- ・ うち 2 パネルは、計画研究の研究報告の形で、A02、B02 がそれぞれひとつのパネルを企画する予定。
- ・ キーノート・スピーチをどうするかについては、今後の議論で決める。

④ オンラインペーパーについて

自由討論

⑤ 中間評価について

曾我文科省学術調査官より、以下の説明があった。

- ・ 今年度、書面評価とヒアリング調査の二段構えで実施される予定。採択時に指摘された問題点の対策がしっかりできているかどうか、新領域ならではの特徴をきちんと説明できるようにしなければならない。また、若手育成も重要である。
- ・

⑥ 和文叢書シリーズ（英語出版要検討）など、最終成果物の在り方をどうするか 次回の議題とする。

⑦ その他

(1) 方法論横断プロジェクトの創設について

以前から末近代表から提案のあった世論調査／方法論に関する計画研究横断プロジェクトの発足について、久保分担者より立ち上げたいとの提案があり、グローバル関係学のための方法論横断プロジェクト（仮称）として設置することが決定された。

(2) スカイプないしテレビ会議システムの導入可能性について

山尾分担者より、遠隔地からの参加が厳しい場合、スカイプないしテレビ会議システムを導入してほしいとの要望があり、次回に向けて準備することとした。

以上